

## ヒダリマキモノアラガイ *Culmenella rezvoji* (Lindholm)

### 【選定理由】

池沼でヨシ帯やマコモ、カナダモなどの沈水植物群落のある場所に生息する(紀平, 1990)。カワネジガイと同時に採集されることが多く、同様の生息環境を好むと考えられる(水産資源保護協会, 1995)。河川下流部や平野部の湖沼の環境がよく保全されていた1960年代に、すでに本種は生息地が少なく珍しい種と認識されていた(原田一夫氏私信)。1970年後半より本種の記録された場所を再調査した例があるが(中山, 1978; 木村, 1994)、再発見されていない。小型種であるので見落としされている可能性もあるが、50年以上県内では生息が確認されていないこと、県内の河川下流域の壊滅的な現状を考えると絶滅と評価された。



### 【形態】

殻長は約 6 mm と小型で、殻は左巻き。カワネジガイのように螺管がはずれて巻くことはないが、各螺層はねじれて、縫合部は強くくびれる。殻口は大きく広く開く。殻表には明瞭な螺条が多数ある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

木曾川水系五条川の須ヶ口付近(原田一夫氏私信)、豊川水系豊橋市蒲池(中山, 1978)で生息していた記録があるが、現生息地はない。

#### 【世界及び国内の分布】

日本固有種。本州(青森県から大阪府)に分布していたが、産地は局限され、近年の記録では生息地は2カ所しか確認されていない(紀平, 1990; 水産資源保護協会, 1995)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

河川の下流域や平野部の湖沼のヨシ帯やマコモ、カナダモなどの沈水植物群落のある場所に生息する(紀平, 1990; 水産資源保護協会, 1995)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

現生息地はない。

### 【特記事項】

水産資源保護協会(1995)では絶滅危惧にランクされている。

### 【引用文献】

- 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究叢報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
中山修一, 1978. 名古屋貝類談話会第7回淡水貝観察調査会の記. かきつばた, (4): 4-5. 名古屋貝類談話会.  
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(II), 131pp.

(木村昭一)